

代表質問



大西 勝巳 議員

高島新政グループ 元気と夢のなる 高島市の 構築しよう

問 合併より3年目を迎え、平成19年度はいよいよ市長が自らの思いを予算に乗せ、施策に反映させる事実上の初年度であると考え、市長は最近の経済情勢の見込み、国の構造改革、地方財政措置の動向および国や県の予算を把握した多くの厳しい課題の中で、新年度に向け平成19年度の予算案を提案され、施策を示された。これら予算案や施策については毎年多くの計画がなされ、その都度多くの論議がありましたが、19年度について元氣と夢のある高島市の構築のため、その実現に向けた取り組みや実態について伺う。

答 市長 総合計画に基づき体系的に取り組みます

①合併、新市の船出という大きな歴史の転換点で、数々の矛盾や地域の思いとの相克、三位一体改革等財政構造の転換など次々と押し寄せる荒波の中、議会のご協力をいただきながら、多くの施策、事務事業を進めてまいりました。お蔭様で最初の峠を越えることができました。合併3年目は、「総合計画」に基づき、施策・事業等を体系的、計画的に進めます。

②まず、福祉、教育、

農林漁業振興をはじめ、市存立の基礎となる政策について、しっかりと力強く取り組みます。その上で、特に「市民に夢と希望と誇りを持っていただき、一つになった高島を実感してもらえぬ施策」についても、鋭意取り組んでまいります。

問 市民が安心して通える公立高島総合病院をめざせ

高島総合病院の経営や施設については、合併前から建設問題、経営問題が議論されていきましたが、未解決のまま今日に至っている。高島総合病院は、市内の医療提供に欠かせない医療機関であり、市民が安心して通える病院をめざすことが待ったなしの状況である。つきましては、地域医療の拠点である自治体病院として、市民の二

ズを補う真の市民病院運営をめざす取り組みを伺う。

①病院建設および改修について

②経営改善について

③医師、看護師不足について

④医療スタッフの意識改革について

答 市長

平成22年度建替工事着工を目標に経営改善に取り組みます

①経営改善を図り、財源の用途を立て、平成22年度には建替え工事に着工したいと考えています。改修工事は現施設の医療環境を改善するために取り組んでいます。

②病院関係者が改善策

を話し合い、平成19年度を体制強化期間として具体的に取り組みます。

③医師の専門化、都市病院への集中等5名の退職者があるなか医師不足は深刻です。今後も関連大学病院等との連携を維持します。現在2名の派遣連絡と産婦人科医師の目的が、さまざま。看護師確保は学校訪問や学生保護者面談、ネット募集を実施、更に新たな確保対策に努め支度金制度や奨学資金制度の改善を図ります。

④行動成果の進行管理や職員研修を行い職員のスキルアップを図ります。



たかしま21 高島の子どもは 高島で 育てなければ

議員 長俊 澤本

問 まちづくりは子どもたちから

高島市の街づくりを考える時、街づくりの柱に子どもたちをおき、子どもたちのことからまず考え、そこから発信していくことにより、子どもを持つ家庭、これから子どもを育てている家庭等が、子どもを育てるなら、街全体が子ども中心に考えられている街がいい、と思うのが当然だと考える。そこで、高島の街づくりを進めるにあたり、街づくりの中心に子どもたちを、という考え方に対し、市当局の考えを問う。

答 市長

子ども達が夢と希望をもって住み続けたいと思えるまちづくりに努めます

まちづくりを子どもに視点を置いて進めることは大切と認識しています。このため、市ふるさと自治大賞の選考には市内の中学生にも審査員になってもらいました。また、小学校の地域学習で大人と一緒に地域を調査することにより、地域の元気を引き出し、新たなまちづくりの気運を惹き起こしたなどの効果も聞いています。一方で、子どもは弱い存在でもあり、発育をサポートする大人や家庭、地

域の役割が重要です。いじめや虐待から子どもを守る力として、体験活動等を通じた地域の子育て力も見直されています。市の未来を託す子ども達が夢と希望を抱き、住み続けたいと思えるまちづくりの創造に努めます。

問 教育現場の改革を

幼稚園・保育園において、保育士と子どもと親の三つが一緒になって幼児教育を考え、進めなくてはと考える。そのため、経験の浅い保育士もしっかり指導できる組織体制でなくてはいけないと考える。しかし現実には、嘱託・臨時の保育士が増え、いきとどいた指導体制でないように思う。小中学校において大切なことは、個々に応じたきめ細かな授業を進めることだと考える。そのために、市費の非



常勤講師の導入による少人数授業を進めるべきと考える。

教師の職務も、会議や研修、レポート提出等に追われる現状から、子どもたちと接する時間や教材研究に時間を使えるように、職務改革も進めるべきと考える。

答 教育長

こついったことを踏まえ、高島市として、教育現場の改革に対する考え方を問う。

高島の教育を創造します

19年度市の学校教育

のテーマを「やさしく、強く、志をもった高島の子の育成」とし、日々の授業と学校生活の充実を第一に掲げています。市費講師による少人数指導の展開や「心をみがく、良知をみがく事業」など高島の先覚や豊かな自然・文化に学ぶ活動を推進します。また、教育活動の重点化や校務の効率化を進め、教師の職務改善に努めます。

就学前教育では嘱託・臨時の保育士に頼るところが大であり、子育てに課題や悩みをもつ親も少なくありません。そこで、「就学前教育の在り方」をはじめ「小学校英語学習プログラム」「高島らしい教育開発」の三部会からなるプロジェクト会議を立ち上げ、市の教育課題に正面から向き合っています。